

# 大安寺報

第71号



曹洞宗 圓祥山大安寺  
 住職：長岡 俊應  
 副住職：長岡 俊成  
 〒039-4401  
 青森県むつ市大畑町  
 本町 80 番地  
 Tel 0175-34-2926  
 Fax 0175-34-6426  
 E-mail info@daianji.jp  
 http://www.daianji.jp

## 名句・名言に学ぶ

坂村真民(仏教詩人)

からっぽ  
 頭を  
 からっぽにする  
 胃を  
 からっぽにする  
 心  
 からっぽにする

そうすると  
 はいってくる  
 すべてのものが  
 新鮮で  
 生き生きしている

この年末、新年を迎えるにあたって、大掃除をした方も多いことでしょう。大掃除は、歳神様をお迎えするため、入って来られる場所である玄関を清めたことに由来するといわれています。現在では、玄関だけではなく家中をきれいに掃除する習慣として定着しています。また、年末年始は、これまでの一年を振り返り、来たる年の目標を立てる時期でもあります。しかしながら、望みが叶わなかったという思い、人に対する怒り、妬みや愚痴で頭や体の中が一杯一杯だという人も多いことでしょう。

仏教では、人間は知らず知らずのうちに、貪・瞋・痴という三つの毒(三毒=煩悩)に侵されてしまうと云われており、そのどれもが放っておくと益々増えていくとされています。冒頭の詩の中で、頭・胃・心の中に満ちてしまうのが、この三毒であるといえることができます。貪は「必要以上に求める心」。瞋は「怒り」。痴は「真理に対する無知の心」です。ではどうやったらそれを克服できるのでしょうか？大切なのは「懺悔の心」です。仏様の前に居住まいを正して座り、これまでの自身の行いを振り返り、反省した上で、『懺悔文』(我昔所造諸悪業 皆由無始貪瞋痴 従身口意之所生、一切我今皆懺悔)を心静かに唱えましょう。そうすることで仏さまのお力によって身も心も清らかなります。その際、深い呼吸をすることもお忘れなく。すると、全ての存在が新鮮で生き生きしたものとして、また、有難いものとして捉えられ、満たされるのです。さあ、心の大掃除を試してみませんか？

## 仏事

### Q&A 第四十六回

Q. ご祈祷とは何ですか？  
 A. 「祈祷」とは、仏・菩薩や神々のご加護を仰いで、私たちのさまざまに除災招福の願いが成就するように祈ることを言います。一般的には、その法要を指します。曹洞宗の祈祷法要では、多くの場合、『大般若波羅蜜多經』という、六百巻(約五百万文字)もの大部なお経を、複数の僧侶が分担して「転読」というかたちで唱えます。この祈祷儀礼は「大般若祈祷会」などと呼ばれています。転読とは、お経の全文を声に出して読誦するのではなく、折本のお経を扇の形にしながら、パタパタと翻してゆくことで、すべて唱えたことに代える方法です。折本を翻す時に、転読文を唱えます。これは、この長いお経に読まれる教えを短く要約した言葉です。折本を翻すと風が生まれ、災いのもとが取り除かれます。大般若祈祷会では、『大般若波羅蜜多經』転読の最後に別の経典も読誦されます。法要の最後に「回向文」が唱えられます。回向文では、經典読誦の功德を仏・菩薩や神々にふりむけて、そのご加護を仰ぎつつ、私たちの除災招福が祈願されます。出典：『仏事Q&A曹洞宗』(国書刊行会)

## 各行事の表書き

- 正月(ご祝儀袋可) 御礼銭
  - 春・秋彼岸 又はご祈祷料
  - 節句(ご祝儀袋可) 御礼銭
  - お盆 御施餓鬼
- 又は 回向料  
 又は 諷誦料



大安寺  
 公式ホームページ  
 スマートホン・  
 タブレット端末の  
 カメラ機能で  
 読み取ってください。



大安寺  
 公式 facebook ページ

回数	年	回数	年
一周忌	令和四年	七回忌	平成二十九年
三回忌	令和三年	十三回忌	平成二十三年
七回忌	平成二十九年	十七回忌	平成十九年
十一回忌	平成二十三年	二十三回忌	平成十三年
十五回忌	平成七年	二十七回忌	平成元年
十九回忌	昭和五十六年	三十三回忌	平成三年
廿三回忌	昭和五十二年	三十七回忌	昭和六十二年
廿七回忌	昭和四十八年	四十三回忌	昭和五十六年
三十一回忌	昭和四十四年	四十七回忌	昭和五十二年
三十五回忌	昭和四十年	五十三回忌	昭和四十六年
三十九回忌	昭和三十六年	五十九回忌	昭和四十二年
四十三回忌	昭和三十二年	六十五回忌	昭和三十八年
四十七回忌	昭和二十八年	七十一回忌	昭和三十四年
五十一回忌	昭和二十四年	七十七回忌	昭和三十年
五十五回忌	昭和二十年	八十三回忌	昭和二十六年
五十九回忌	昭和十六年	八十九回忌	昭和二十二年
六十三回忌	昭和十二年	九十五回忌	昭和十八年
六十七回忌	昭和八年	百一回忌	大正十三年

【法事の際にご用意いただくもの】  
 ①御位牌  
 ※仮位牌は、忌明け(二十五日)もしくは(二十九日)まで  
 ②本堂にお供えする御供物(あげもの)少々(菓子・果物など)  
 ※可能であれば前日までに届けてください。当日になる場合は、法事開始十分前までに御持参ください。  
 ☆引き続き墓参をされる場合は、線香・ろうそく・供物・花・洗米(あらわれ)なども御持参ください。

【維持費納入について】  
 ○令和四年度維持費(四千元)の納付期限は令和四年十二月三十一日です。期限を過ぎても納付可能です。納付忘れのないようお願いいたします。

曹洞宗テレホン法話  
 曹洞宗宗務庁運営  
 0120-508-740  
 携帯の方は 03-3454-5410

曹洞宗テレホン法話  
 「心の電話」  
 東北管区教化センター運営  
 022-218-4444  
 ※2月21日～28日  
 「お地藏さまの功德」  
 (副住職担当)

各種講座のご案内(令和五年一月～三月)  
 ※新型コロナウイルス感染症拡大の場合は中止する場合があります。なお、当面の間、茶話会の開催は見合わせます。  
 ◆「月例写経・写仏会」(予約不要)  
 日時 一月二十九日(日)、二月二十六日(日)、三月二十六日(日) 午後一時～三時  
 内容 ミニ法話・写経・写仏  
 場所 中広間 参加費 三百円 備考 椅子席  
 ◆「黄昏坐禅会」(予約不要)  
 日時 一月十五日(日)、二月十九日(日)、三月十二日(日) 午後四時～五時 ※坐禅指導希望の方は午後三時半集合  
 内容 禅語紹介・坐禅  
 場所 中広間 参加費 無料 備考 椅子坐禅可能 服装 動きやすい服装で。(スカート・ジーンズ不可)  
 行事カレンダー(令和五年一月～三月)  
 ■一月一日(日)・元旦 午前0時  
 「元朝大般若祈祷」(本堂)・「除夜の鐘」(鐘楼堂)  
 ■三月十五日(水) 午前十一時  
 「涅槃会法要」(本堂)  
 ※お釈迦さまの入滅(涅槃)にちなみ、報恩感謝する法要です。  
 ■二月二十一日(火)・春分の日  
 「春季彼岸会法要」(本堂) 午前十一時  
 ※同日午後二時より、「永代供養墓苑合同供養祭」※荒天時は本堂にて

編集後記 コロナ禍、大雨被害など、ここ数年の間に様々な災いに見舞われた中、令和四年はウクライナをめぐる戦争が始まるなど、激動の一年となりました。来たる年は、その戦争が少しでも早く終戦を迎えることができるよう、災いが少ない年であるよう願うばかりです。皆さま方にとって、来年が平穏で実り多い年となることを祈念いたします。(副住職)  
 次号のご案内 令和五年三月中旬に発行予定です。

大安寺の宗旨：曹洞宗 両本山：福井県 永平寺・神奈川県 總持寺 高祖：道元禪師 太祖：瑩山禪師  
 ご本尊：釈迦牟尼仏 本尊唱名：南無釈迦牟尼仏(なむしゃかむにぶつ)